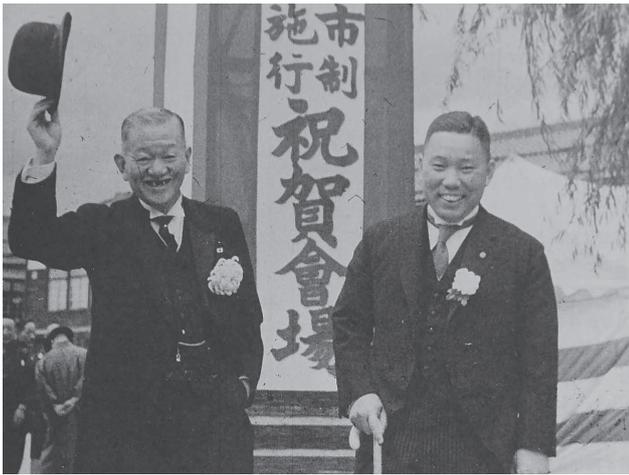


【シリーズ80年のあゆみ】

第1章 市町村合併

昭和11年11月1日、県内3番目の市として高山市が誕生しました。

80年にわたる高山市のあゆみを、広報たかやまではさまざまなテーマで振り返ります。



写真①

昭和11年11月、市制施行祝賀会場に臨む直井佐兵衛市長臨時代理[㊦]と岐阜県の坂千秋知事。

写真②

平成17年2月、市民文化会館で開かれた合併記念式典で合唱する市内の中学3年生。

高山市の誕生

昭和11年11月1日、大野郡の高山町と大名田町が合併し、人口30,857人の高山市が誕生しました。県内では岐阜市、大垣市に続く3番目の市で、飛騨地域では初です。

当時、高山市のほかには、現在の市域で、大野郡大八賀村、上枝村、丹生川村、清見村、荘川村、宮村、久々野村、益田郡朝日村、高根村、吉城郡国府村、上宝村がありました。

清見村から明治22年に分立した上枝村が昭和18年4月1日、高山市に編入合併し、人口は39,471人になりました。

戦後、新しい業務が増えた市町村に合理化を求めた国は、昭和28年に町村合併促進法、昭和31年に新市町村建設促進法を制定。これにより全国の自治体数は昭和28年から昭和36年までの間に3分の1減の3,472となりました。

このころ高山市に編入合併したのが大八賀村です。合併により人口は48,839人になりました。

また、久々野村は昭和29年4月1日に、国府村は昭和39年11月3日にそれぞれ町村制を施行。結果、高山市、丹生川村、清見村、荘川村、宮村、久々野町、朝日村、高根村、国府町、上宝村の1市

(単位:人)

●合併市町村の人口推移

	昭和15年	昭和35年	平成12年	平成28年
高山市	37,301	50,588	66,430	62,992
丹生川村	6,290	6,312	4,719	4,408
清見村	5,129	4,331	2,657	2,483
荘川村	3,729	3,560	1,345	1,157
宮村	1,941	2,089	2,659	2,537
久々野町	4,722	5,709	4,132	3,643
朝日村	4,796	4,253	2,155	1,730
高根村	1,991	2,123	814	358
国府町	6,204	6,654	8,101	7,614
上宝村	6,898	6,675	4,011	※ 3,102
計	79,001	92,294	97,023	90,024

出典：昭和15年から平成12年までは国勢調査(各年10月1日現在)。平成28年は市民課調べ(4月1日現在)。※内訳は上宝町1,770人、奥飛騨温泉郷1,332人。なお、本市の総人口は平成12年がピークでした。

9町村が平成17年1月31日まで続きます。

平成の大合併

昭和40年代半ばに昭和の大合併が終了し、平成11年に「市町村の合併の特例に関する法律(合併特例法)」が成立するまでの30年近くに、市町村の事務はますます増える一方、過疎化の進展によって小規模の自治体は増える傾向にありました。

国は合併特例法で手厚い財政支援策を盛り込むことにより、法律が失効する平成17年3月までに市町村合併